記 者 発 表

いのちとくらしをまもる
防　災　減　災

令 和 4 年 8 月 30 日 14時00分発表
国土交通省　岩木川ダム統合管理事務所

令和４年８月９日出水における
浅瀬石川ダム、津軽ダムの効果について【速報】
～ダム群の連携と再開発ダムにより洪水被害を軽減～

令和４年８月９日の前線の影響により、青森県内は大雨となりました。
岩木川ダム統合管理事務所が管理する、浅瀬石川ダム(黒石市)、津軽ダム(西目屋村)では、ダムへ流入した洪水を貯め込みました。通常の洪水調節とは別に浅瀬石川ダムでは特別防災操作(ダム放流量の絞り込み)を行い、下流河川の水位低減に寄与しました。
また、津軽ダムでは旧目屋ダム洪水調節容量(2,４００万m^3)を超える2,８００万m^3の流入があり、旧目屋ダムでは緊急放流の可能性がありましたが、津軽ダムの洪水調節容量(5,０００万m^3)に収まったことから緊急放流は生じませんでした。

ポイント

① 浅瀬石川ダムでは、ダム流域平均雨量累計は、２７１mm、ダム流入量は４５０m^3/ｓ
(平成２５年９月 ４５９m^3/ｓと同等)

② 津軽ダムでは、ダム流域平均雨量累計で５０２mm、ダム流入量は既往最大の１２０９m^3/ｓ
(平成２５年９月 目屋ダム６６０m^3/ｓの約２倍)

③ ダムによる洪水調節で浅瀬石川ダム下流の朝日橋で約2.１ｍ、津軽ダム下流の上岩木橋で約2.3m水位低下させたと推測
(ダム無しでは、朝日橋で計画高水位、上岩木橋では氾濫危険水位を超過と推測)

④ 浅瀬石川ダムでは、下流河川管理者からの特別防災操作(絞り込み)要請を受け、ダム放流量を半減
(１９０m^3/ｓから１００m^3/ｓ)

⑤ 津軽ダムへの総流入量が約2,８００万m^3となり、旧目屋ダム洪水調節容量(2,４００万m^3)を超えることから、旧目屋ダムでは緊急放流(流入＝放流)となっていたと推測されるが、津軽ダム洪水調節容量(5,０００万m^3)の範囲内で対応可能であった。

⑥ 浅瀬石川、津軽両ダムの効果により、下流河川水位低下に寄与し、下流鶴田町では水防活動(積み土のう)と相まって、堤防越水を防止できたと推測

【記載された数値は速報値であり、今後の詳細検討により変更される場合があります。】

＜発表記者会：弘前記者会、黒石記者クラブ、専門紙各社＞

問い合わせ先
国土交通省　東北地方整備局　岩木川ダム統合管理事務所
（浅瀬石川ダム、津軽ダム）

〒０３６－１４２２
青森県中津軽郡西目屋村大字居森平字寒沢１３８－２
ＴＥＬ　０１７２－８５－３０３５
ＦＡＸ　０１７２－８５－３０６１

副　所　長　　遠藤（えんどう）　俊彦（としひこ）　（内線　204）

調　査　課　長　　工藤（くどう）　忠行（ただゆき）　（内線　351）

1．岩木川水系のダム統合管理の効果（令和4年8月9日　前線に伴う洪水）

【岩木川ダム統合管理事務所では、ダムの特別防災操作※1を実施する等、下流河川の水位低減に努めました】

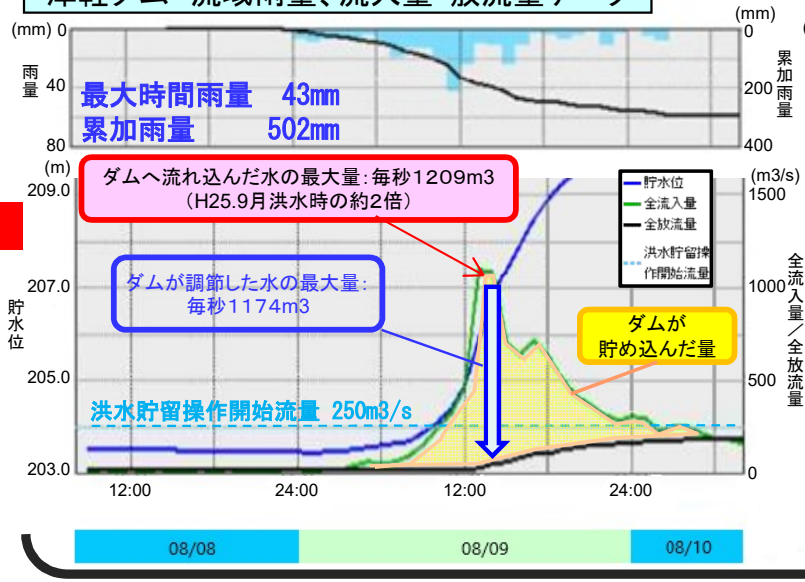
◆津軽ダム上流域では累加雨量が５０２mmに達する大雨になり、津軽ダムへの**最大流入量が毎秒１２０９m³**となり、**管理開始（Ｈ２９）以降第１位**で、最高水位を記録した平成２５年９月洪水時の約２倍の最大流入量を記録しました。

◆浅瀬石川ダムでは、**特別防災操作**※1を実施して、下流河川の水位低減のため、ダム放流量を絞り込みしました。

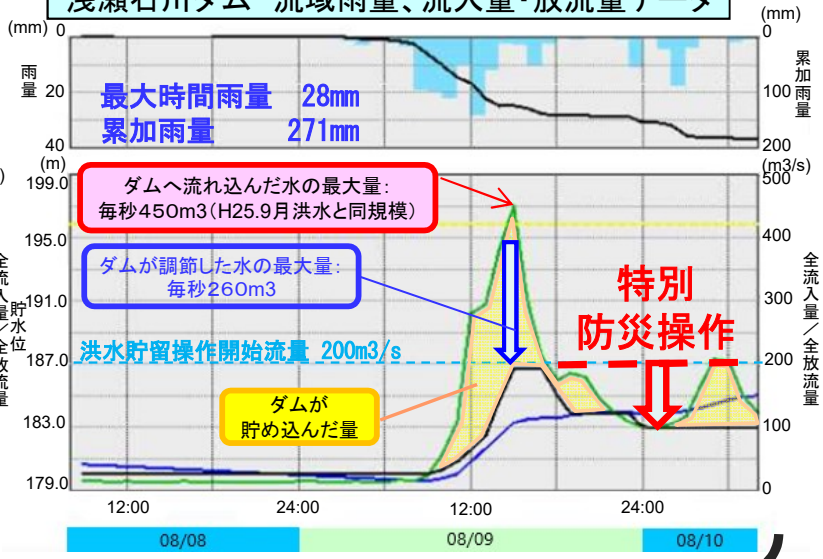
位置図

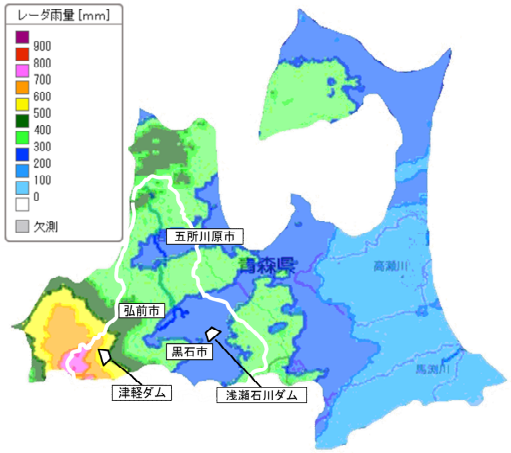


津軽ダム　流域雨量、流入量・放流量データ

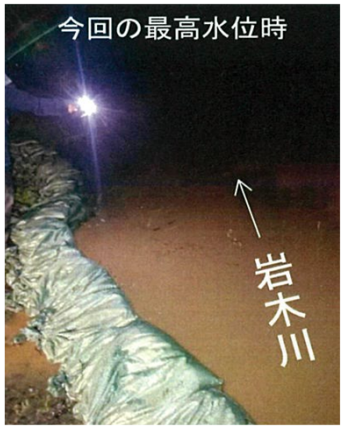


浅瀬石川ダム　流域雨量、流入量・放流量データ



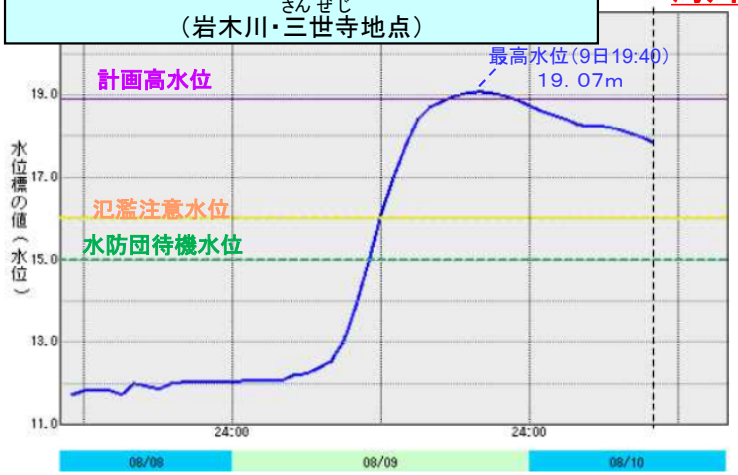


▲青森県の等雨量図・8月9日～13日累加
（統一河川情報システム）



▲岩木川左岸35．6k付近状況

二つのダム下流河川が合流した後の水位データ（岩木川・三世寺地点）



二つのダムで水を貯め込んだ分、河川水位が低下しました。

今回の豪雨は、ダム操作の結果、三世寺地点では過去最高水位（H25年）19．43mを下回りました。

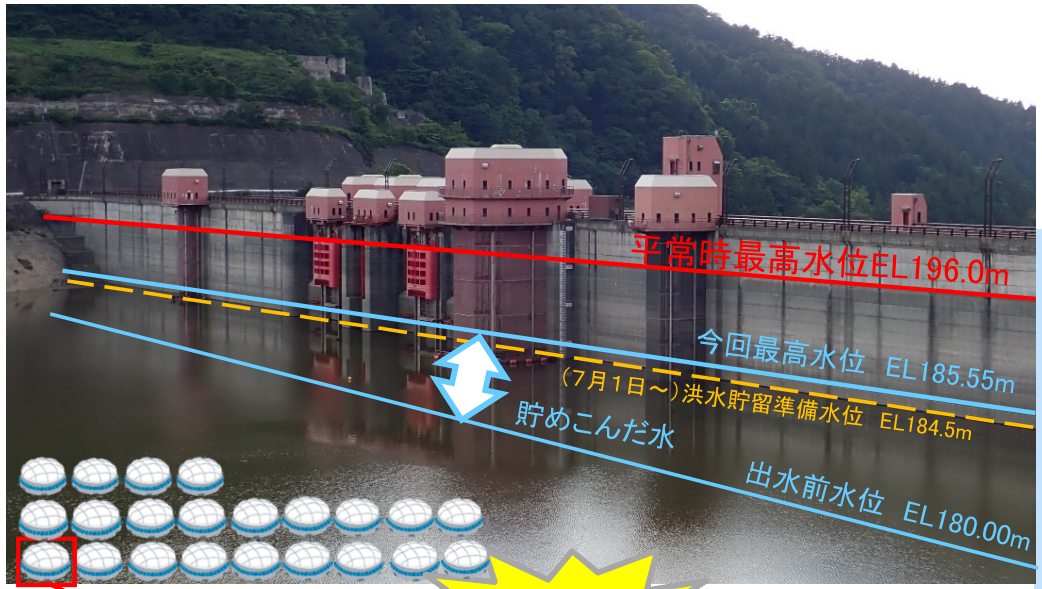
※1：特別防災操作とは、下流河川の水位上昇軽減を図るため、今後の降雨予測を確認しながら、ダムに貯め込む水の量を増やし、ダムから流れる水の量を減少させる操作。

【記載された数値は速報値であり、今後の詳細検討により変更される場合があります。】

２．岩木川水系のダムの効果（浅瀬石川ダム）

◆８月９日からの前線や低気圧に伴う降雨により、ダム流域平均雨量累計２７１mmを記録するとともに、ダムへの流入量が４５０m³/sを記録した。
◆浅瀬石川ダムに貯め込んだ水の量は、つがる克雪ドーム（五所川原ドーム）約２２杯分※2
◆ダムの洪水調節により朝日橋水位観測所（田舎館村大字川部）の水位を約２．１２m低減出来たと推測

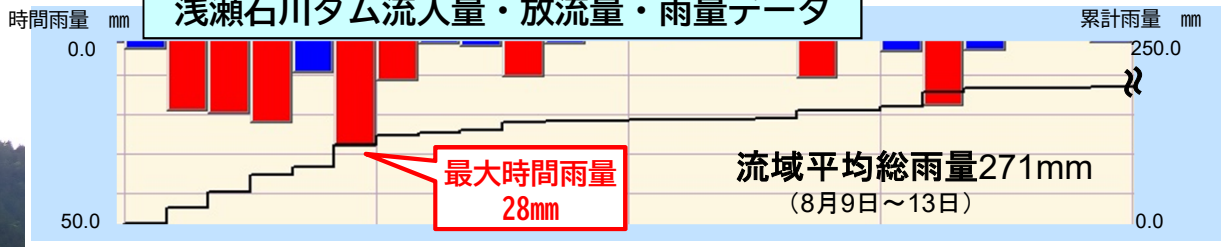
浅瀬石川ダムに貯め込んだ量

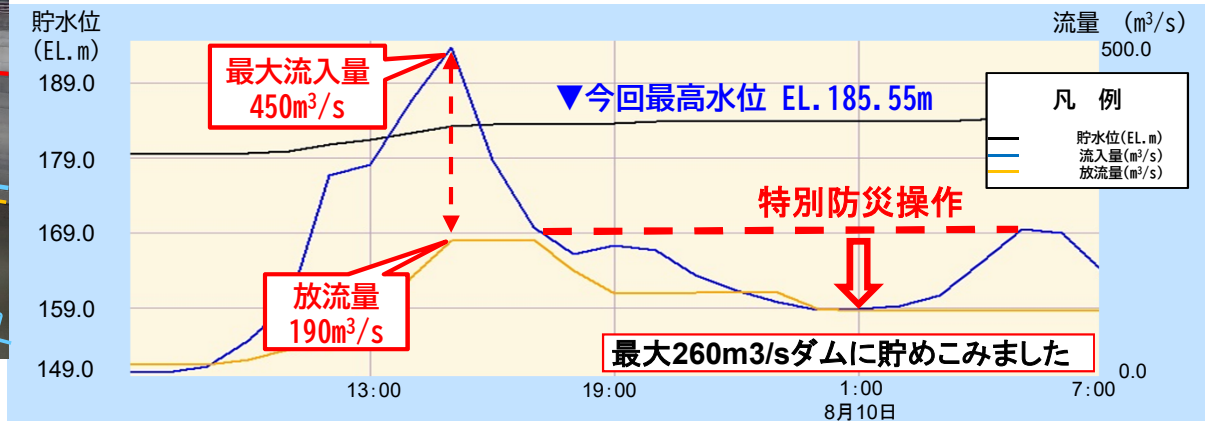


※2：貯水量：6,860,0000m³

つがる克雪ドーム
約２２杯分※2

浅瀬石川ダム流入量・放流量・雨量データ





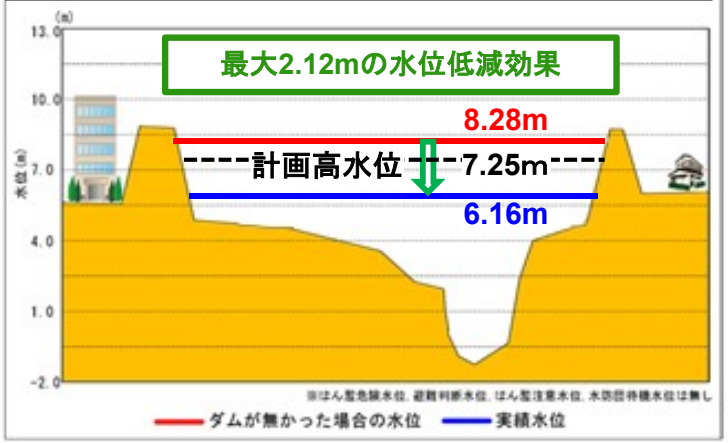
▼ 放流中の浅瀬石川ダム（令和４年８月８日）



つがる克雪ドーム（提供：五所川原市）



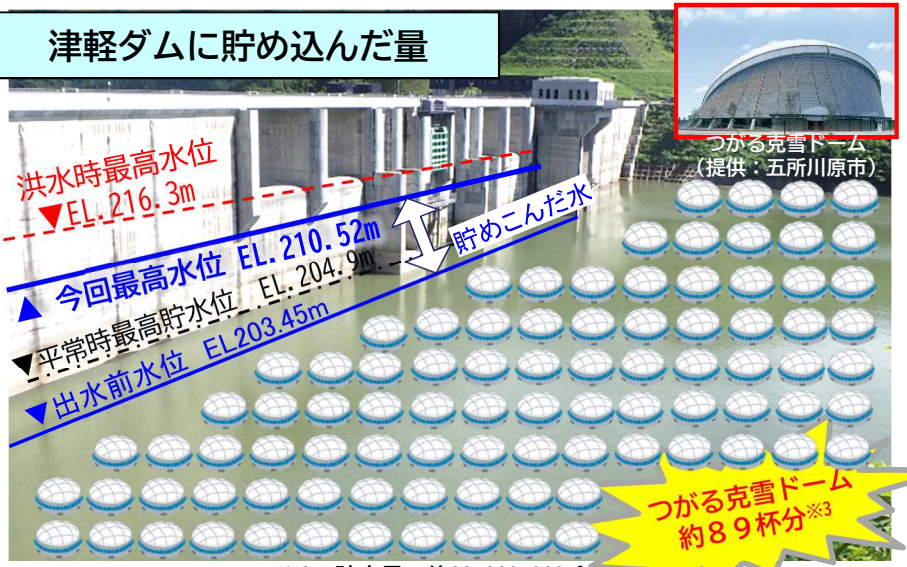
浅瀬石川ダム防災操作効果（朝日橋）



3．岩木川水系のダムの効果（津軽ダム）

◆８月９日からの前線や低気圧に伴う降雨により、ダム流域平均雨量累計５０２mmを記録するとともに、ダムへの流入量が１２０９m³/s（既往最大流入量）を記録した。
◆津軽ダムに貯め込んだ水の量は、つがる克雪ドーム（五所川原ドーム）約８９杯分※3
◆ダムの洪水調節により上岩木橋水位観測所（弘前市下湯口字青柳）の水位を最大約２．２８m低減出来たと推測
◆今回、津軽ダムに貯めた水の量は、目屋ダム（平成27年管理終了）の洪水調節容量を約４００万m³上回るため、緊急放流の可能性があり、さらに下流河川の水位が上昇する恐れがあったが、津軽ダムにより危険回避された。

津軽ダムに貯め込んだ量

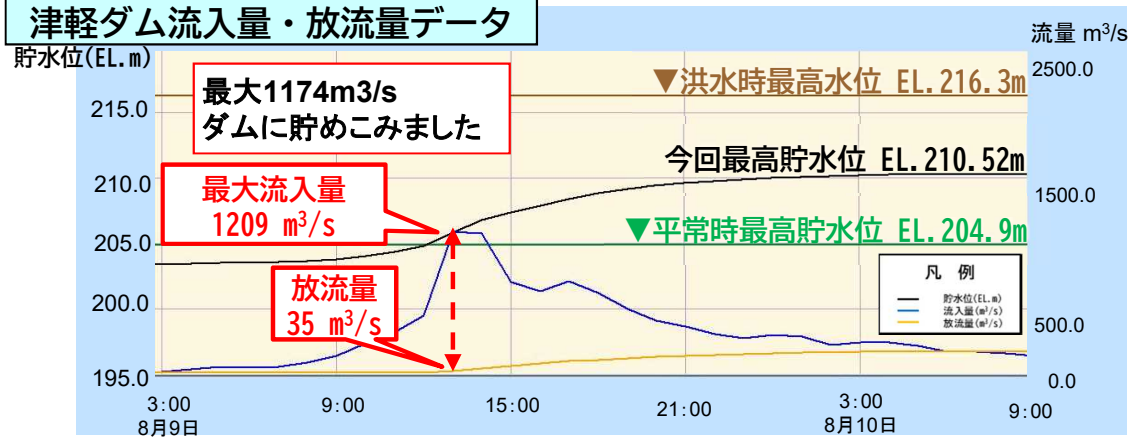


※3：貯水量：約28,000,000m³

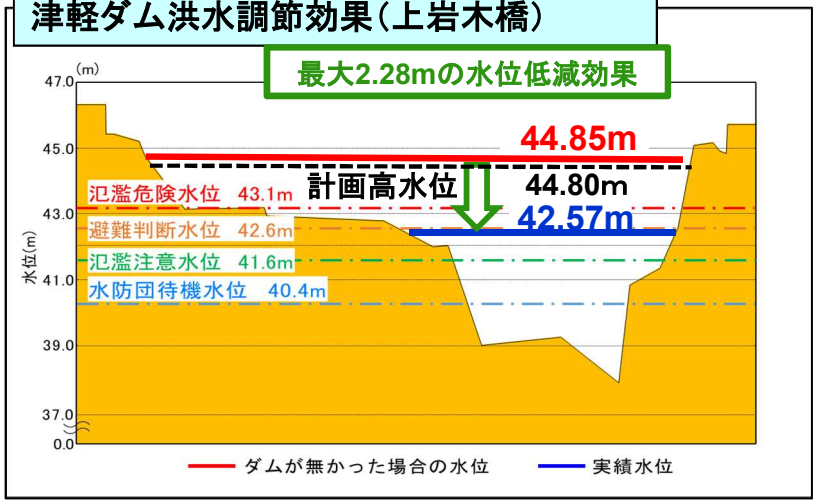
雨量データ



津軽ダム流入量・放流量データ



津軽ダム洪水調節効果（上岩木橋）



再開発前（目屋ダム）との比較

